JR WEST
西労組
UNION ニュース
No.7
(通算)No.575
2024.4.19
JR西労組ホームページ
(http://www.jrw-union.gr.jp)

西日本旅客鉄道労働組合
本部／〒530-0012 大阪市北区芝田二丁目一番十八号（西阪急ビル9F）
TEL JR(大阪)〇七一-七一-五五(代) NTT(〇六)六三七五-九八六九(代)
FAX JR(大阪)〇七一-七一-五一 NTT(〇六)六三七三-四一-三三
●発行責任者／上村 裕良
●編集責任者／尾﨑 介成

2024春季生活闘争妥結!!

組合員平均19,820円で過去最高の賃金引上げ
駅・指令・車両・施設・電気・医療に手当新設
作業責任者手当・夜間看護手当などが増額

中央闘争委員会は3月12日、14時から交渉に臨ました。会社からの回答提示では、賃金引上げ額が、定期昇給を含めて組合員平均19,820円、引上げ率は6.3％。これは、JR西労組発足以後、過去最高であり、その他各手当についてもこれまで訴えてきた地上職・医療職等への幅広い改善が図られました。

中央闘争委員会は、ベースアップや手当の新設・増額等は、物価高に配慮しつつ、全ての社員の労苦に応え、離職が高止まりしている若年層に光が当たる成果であり、JR西日本グループ労組にも波及するもので、「人財の確保および定着と成長に向けた提言」が実を結ぶことと確認し、妥結した。

２０２４春季生活闘争において、中央闘争委員会を支えていただいたJR西労組全組合員とその家族の皆様に感謝を申し上げます。

2024春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

中央闘争委員会は、3月12日に2024春季生活闘争の最終交渉に臨み、JR発足以来過去最高となる基準昇給、ベースアップ、諸手当の改善を含めた平均の賃上げ額 19,820 円、平均賃上げ率 6.3%の回答を引き出し、妥結した。基準昇給の完全実施、ベースアップ4,500円（シニア・シニアリーダー社員を含む）、C層はさらに2,000円の増額、年間臨給5.2箇月分、各種手当の増額・新設を確認し、これまで改善を求めてきた地上職や若年層に幅広く光があたる回答であると判断した。諸手当では、深夜勤務等手当、災害等特別出勤手当、夜間看護手当の増額、構内入換の乗務員手当の増額、高度資格保有手当の新設（一級建築士・電気主任技術者（1・2種）・技術士・鉄道設計技士）並びに資格取得一時金の見直し、駅長業務手当、信号操車手当の新設、指令長、指令員手当の増額、工務系統の作業責任者等の職務手当の増額、車両系統のメンテナンス手当、駅作業主任者手当の新設、通勤手当、帰省等交通費の要件緩和、異動一時金の新設や社員の資産形成の充実、さらには契約社員の時給120円引上げ等、私たちの要求に幅広く応える回答を引き出した。

JR西日本の経営状況は、お客様のご利用の回復やインバウンド需要が好調に推移し、今後の成長の礎となる大規模プロジェクトを活かした施策展開に加え、事業構造改革の着実な進捗など、これまでの取り組みが実を結び、3期連続の増収増益を果たし、2度目の通期見通しの上方修正や増配を公表した。そして、能登半島地震の影響もある中、直近2カ月の運輸取扱収入は、2019年比で97.1%まで回復しており、収入はコロナ前水準に近づいている。

2024春季生活闘争は、組合員がさらに高いモチベーションを発揮しながら、一人ひとりが業務に対して弛まぬ努力を継続し、自身の役割を確実に果たしていくためには、未来を見据えた「人財への投資」が不可欠であり、「働きの価値に見合った魅力ある賃金の追求」「物価上昇を上回る持続的な賃上げ」「人財の確保と定着・採用競争力の強化」につながる「未来づくり春闘」を創り上げるべく交渉に臨んだ。要求として年度初の基準昇給の実施、ベア10,000円、年間臨給5.7箇月、職務手当の改善、離職防止と採用競争力向上のための初任給の引き上げとそれに伴う賃金カーブの見直し、地上職への手当の増額や新設、柔軟な働き方、職場環境改善等の方針を掲げ、精力的に交渉を積み重ね、切実な組合員の声を訴えてきた。ボーナスの減少や物価上昇等により組合員の可処分所得は目減りする中、組合員の生活は厳しく、将来に対する不安等から一部の系統では依然として離職者が高止まりしており「将来に希望のもてる持続的な賃上げ」が必要であると強く主張してきた。

こうした私たちの強い訴えに対して、会社は最終回答で『この間、「私たちの志」「長期ビジョン2032」を掲げ、「中期経営計画2025」「安全考動計画2027」の初年度として取り組みを行う中、日々安全性向上に取り組み、高い使命感を持って業務に精励いただいている社員の皆さんに、心から感謝申し上げる。今回の回答は、経営が回復過程にあること、物価や金利が上昇局面にあることを踏まえると相当踏み込んだ内容であるが「私たちの志」の実現に向けて、社員一人ひとりが誇りとやりがいを持って挑戦し、笑顔で元気に仕事に取り組んでいただくことを期待し、判断したものである。』との考えを示した。

今回の回答は、直近のご利用が9割程度に回復しているものの、利益は7割程度に留まっており、構造改革が進む中においても来年度はプロジェクトの開業経費やDX関連経費の増加が予想されるなど、今なお楽観視できない経営状況の中、「基準昇給、ベア及び諸手当の改善を含めた一人当たりの平均の賃上げ額は19,820円、平均賃上げ率6.3%」「年間臨給5.2箇月」の回答は、物価高に配慮しつつ、全ての社員に対して、コロナ禍の労苦に応え、ポストコロナの新たなステージに向け、働きがい向上に資する「人財への投資」を重視する会社の姿勢を示したものである。また、地上職を中心とする諸手当の改善については、今日まで私たちが求めてきた内容を網羅するものであり、離職の歯止め、採用競争力強化に繋がるものと確信する。また、離職の多い若年層、C層に対するベースアップの上積み、初任給調整手当の基本給化についても、会社として将来の人財に対する今後の活躍への期待を示すものと考える。期末手当については、大幅な賃上げを実施する中においては、会社として精一杯の回答と受け止める。

最後に、今春季生活闘争も檄布行動やフォトモザイクなどへの積極的な参画により、中央闘争委員会を最後まで精力的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様に心より感謝申し上げる。

今後も「安全」を基礎に、JR産業の魅力を高め、人財の確保および定着と成長ができる会社にしていく決意を明らかにし、2024春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2024年3月12日

西日本旅客鉄道労働組合（JR西労組）
2024春季生活闘争中央闘争委員会

春闘結果の解説

I. 基本給等について

1. 社　員

（1）基準昇給･･･2024年度の基準昇給は、2023年度と同様の基準昇給額表に基づき実施する。

【解説】

基準昇給とは･･･

勤務年数や年齢が高くなるほど、経験やスキルなどが蓄積されることを考慮した制度であり、賃金の根幹をなすもの。また、基準昇給額表については、大規模災害や経営に甚大な影響を与える事象の発生がないことを確認したうえで決定するもの。

（労働協約第207条）
基準昇給額は、資格級及び在級年数別に、第199条（基準昇給額表）に定めるところによる。
なお、**基準昇給額表は毎年決定することとする。**

毎年、4～5月にその年度初の4月1日昇給額（平均昇給額）を業務速報にて共有している。昨年まで（過去5年間）基準昇給平均額は以下のとおりである。

年	基準昇給（平均額）
2023年4月1日以降	5,889円
2022年4月1日以降	5,788円
2021年4月1日以降	5,866円
2020年4月1日以降	5,782円
2019年4月1日以降	5,594円

中央闘争委員会は、
- ●コストでも人材への投資でもなく、当然実施すべきものであり、賃金制度の根幹をなすもの。
- ●基準昇給を実施しなければ、賃金カーブを維持できなくなることから賃下げになること。

交渉場面では、優秀な人財の確保や離職防止の観点からも重要であり、速やかに基準昇給実施の回答を会社へ求め、交渉1回目の2月14日に確認したところ、会社からの「年度初に実施できるように検討を進めていく」との回答を受け、基準昇給が年度初に実施されることを判断した。

なお、正式な回答は3月12日の回答提示において「基準昇給の年度初実施」の回答を受けた。